

イチゴのランナー挿し栽培

1. 研究のねらい

イチゴは炭そ病に罹病しやすいので、育苗には雨よけハウスが不可欠です。また、育苗期間は約半年に及ぶことから、その労力は多大であり、省力化が必要となっています。

そこで、ハウス高設ベンチ栽培において、収穫を終えた株からランナーを発生させ、それを育苗せずにベッドに直接定植する「ランナー挿し栽培」を確立しました。

2. 栽培方法

1) 作業日程

台刈り
(6月)



ランナー発生
(7月)



定植
(8月上旬)



ランナー切断
(8月下旬)



開花
(10月下旬)



収穫開始
(12月上旬)



2) 肥培管理

定植から活着まではEC0.4~0.6dS/m、活着~花芽分化まで0.3~0.4とし、花芽分化確認後慣行管理に戻します。

3) 病害虫防除

初年度は必ず無病苗を定植します。農薬散布回数は、収穫が終了した時点から翌年度の収穫終了までを栽培期としてカウントします。

3. 経済性

労働時間は5~9月を中心に約200時間の削減ができます。又、育苗土の購入や育苗ハウス・育苗システムの設備が不要になるため、年間約23万円(減価償却費を含む)の経費削減が見込まれます。